

幼稚園：中央区立泰明幼稚園

所在地：中央区銀座五丁目1-13

園長：荒川 比呂美

園児数：6名

学級数：1学級

教員数：2名

職員数：1名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

◎重点目標全体について

- ・昨年度同様に、重点目標について、保護者会や学級懇談会、ルクミーでの配信の度に触れたり戻って考えたりする機会を教員だけでなく保護者にも発信したことで、高い評価につながった。その都度、教員は自分の保育を振り返り、保護者は幼児の成長を重点目標を通して意識する機会となったと考える。

◎重点目標1 好奇心や探究心を引き出し、思考力の芽生えを育む

評価項目 ①夢中になって遊べるよう、保育室等の環境を整備する。

②遊びや生活の中で工夫したり試行錯誤したりする楽しさを味わえるよう、教材を準備する。

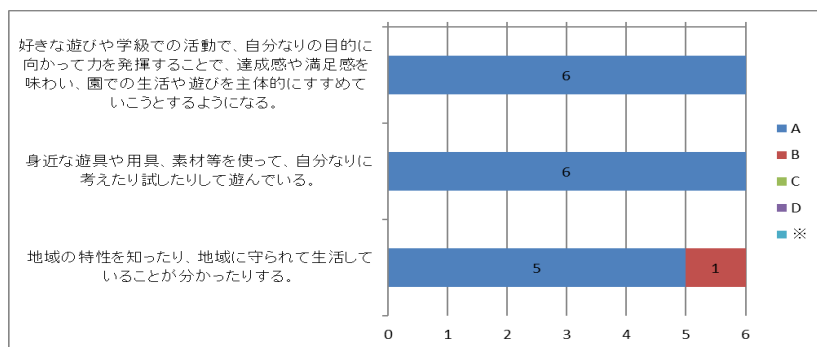
③多様な体験ができるよう、地域環境を生かす。

(交番に飾り物を届ける 日比谷公園に出掛ける ナルニア国で絵本に触れる)

評価指標 ①好きな遊びや学級での活動で、自分なりの目的に向かって力を発揮することで、達成感や満足感を味わい、園での生活や遊びを主体的にすすめていこうとするようになる。

②身近な遊具や用具、素材等を使って、自分なりに考えたり試したりして遊んでいる。

③地域の特性を知ったり、地域に守られて生活していることが分かったりする。



<達成状況>

- ・「A：十分達成している」との回答が94%、「B：達成している」との回答を合すると100%の評価をいただき、重点目標1はほぼ達成できたと評価できる。

<取組状況(○)及び今後の改善方策(◆)>

○年4回の街探検や年3～5回の日比谷公園散歩、月1回地域の方が来園されての童歌遊びの会を通して、それぞれ何を経験させたいかを明確にして、様々な経験ができるようにしてきた。街探検で関わった交番で登園時挨拶をするなどの幼児の姿から、教育活動の成果を感じている声が保護者から聞かれている。

- ◆街探検や散歩では、年間を通して何を経験させたいかを明確にして計画することで、有意義な活動となったため、教育計画にも具体的に掲載することで、活動の意義を引き継いでいく。

◎重点目標2 他者との関わりや自然とのふれあいを通し、豊かな情操を育む

評価項目 ①挨拶をする心地よさを感じられるよう、教師が率先して挨拶をする。

②小学校や近隣園等異年齢交流を計画的に実施し、多様な感情を味わえるようにする。

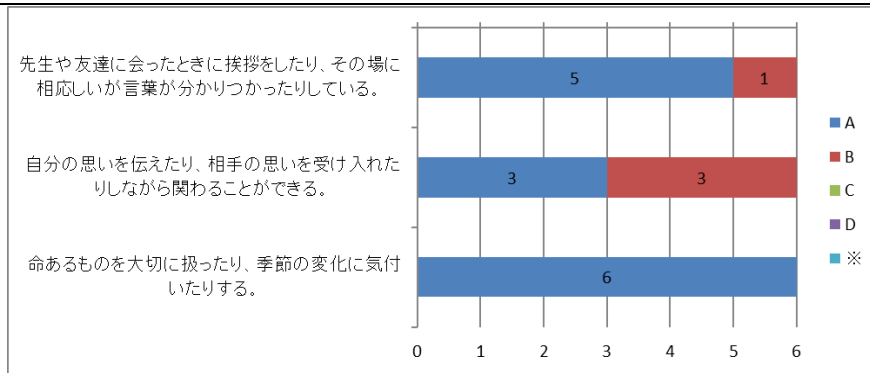
(自己表現する 他者への思いや気持ちを理解し関わる 葛藤する気持ちを調整する)

③身近な自然や、周囲の状況に気付かせる援助をする。(動植物への接し方 栽培活動)

評価指標 ①先生や友達に会ったときに挨拶をしたり、その場に相応しい言葉が分かりつかったりしている。

②自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け入れたりしながら関わり合えることができる。

③命あるものを大切に扱ったり、季節の変化に気付いたりする。



<達成状況>

・「A：十分達成している」との回答が77%、「B：達成している」との回答を合すると100%の評価をいただいた。「自分の思いを伝えたり、相手の思いを受えたりしながら…」の評価指標ではBの評価が50%であり、自己評価でも同じ評価であった。

<取組状況（○）及び今後の改善方策（◆）>

○自分の思いを言葉で伝えなくても相手に伝わってしまう家庭での様子や少人数園の課題があった。幼児が自分で言葉にして伝えることの必要を感じられるような意図的な言葉掛けをしたり、そのことを保護者にも伝え、家庭で取り組んでももらえるよう促したりしてきた。

◆言葉が足りない、うまく表現できない実態もあるため、生活や遊びの様々な場面を通して具体的に「こういうふうに伝えよう」「○○○って言いたいのかな？」等、言葉を伝えたり、伝えられたときには「（その伝え方）よくわかったよ」と認めたりしていき、自分の思いを言葉で伝えられるような援助や関わりを工夫していく。また、家庭と園とが同じような関わり方ができるよう、引き続き、家庭と連携を図っていく。

重点目標3 のびのびと体を動かし、たくましい心と体を育む

評価項目 ①運動遊びへの意欲を喚起し、体を動かす気持ちよさを感じられるよう、多様な運動遊びができる機会や場を準備する。

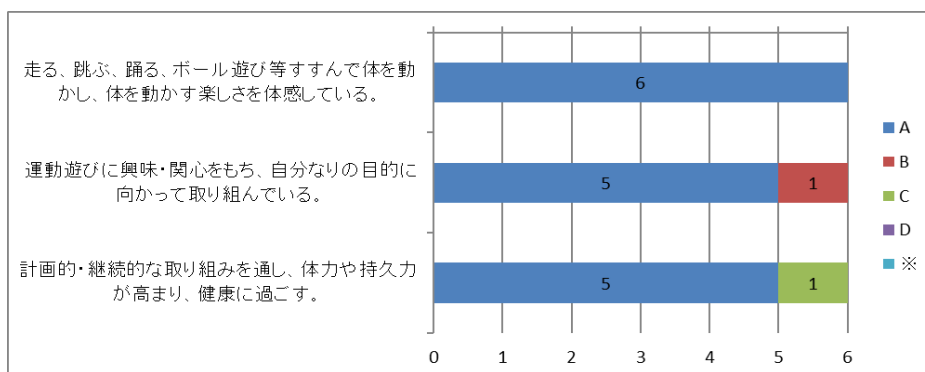
②校園庭や体育館、小公園等を活用し、継続的に運動遊びをする中で、挑戦する姿勢を促す。

③地域への散歩や徒歩遠足の機会を設け、基礎体力をつける。

評価指標 ①走る、跳ぶ、踊る、ボール遊び等すすんで体を動かし、体を動かす楽しさを体感している。

②運動遊びに興味・関心をもち、自分なりの目的に向かって取り組んでいる。

③計画的・継続的な取り組みを通し、体力や持久力が高まり、健康的に過ごす。



<達成状況>

・「A：十分達成している」「B：達成している」を合わせると88%と、高い評価を受けた一方で、「計画的・継続的な取り組みを通し…」の評価項目では、「C：改善を要する」の評価があった。

<取組状況（○）及び今後の改善方策（◆）>

○4歳児入園児として、様々な運動遊びを経験することで、身体を動かすことを楽しみ、自分たちで遊ぶ様子が見られるようになっていく。しかし、単学級6名の学級ということで、教師側が計画的に運動遊びを取り入れても興味が継続しなかったり、人数が少ないことで楽しみが半減してしまったりする場面もあった。繰り返し学級で楽しめるようにするために、全員で1つ運動遊びをしてから好きな運動遊びを自分で楽しめる時間をとる形の進め方は有効であった。

◆全員で運動遊びをする時間を確保するための保育計画（給食時間に校庭を使うなら、弁当の食休みを利用して、全員片付けが終わっている状態にする、登園したらすぐに遊び出せるような環境することで好きな遊びの時間を確保し、校庭が使用できる３時間目には戸外へ出て遊べるようにする等）を考えて保育を進めていくことが必要である。学級経営案で長期的計画を担当が立て、職員会議で中期的計画を、週案・週打ち合せで短期計画を全体で共有する機会を設けることで、運動遊びに限らず幼児に必要な様々な経験が積み重ねられるように保育を計画的に進めていけるようにする。

○少人数であるため、運動遊びの刺激をもらうことを保育園や小学校との交流計画の中で実施することができた。（氷鬼、玉入れ、リズム遊び、かけっこなど）

◆来年度の自園の体制・実態に応じて、こどもたちにとってどのような方法が有効なのか考えて計画をしていく。

２ 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

<保護者アンケート全体の評価より>

設問 １： 幼児は幼稚園に行くことを楽しみにしている。

設問 ２： 幼稚園は、幼児の年齢に応じて園生活に必要な生活習慣を身に付けている。

設問 ３： 教職員は幼児をよく理解して指導にあたっている。

設問 ４： 教職員は協力して、あたたかく幼児の指導にあたっている。

設問 ５： 幼児は明るく伸び伸びと幼稚園生活を送っている。

設問 ６： 幼稚園は幼児が体を動かして遊ぶことや自然に触れる経験にすすんで取り組んでいる。

設問 ７： 子どもは年齢に応じて、していいこととしてはいけないこと等の規範意識を身に付けさせている。

設問 ８： 幼稚園は幼児が幼児同士や身近な人のかかわりを大切にしたい保育を展開している。

設問 ９： 幼稚園は幼児の年齢に応じて思いやりの心や命を大切にする心を身に付けさせている。

設問 10： 幼稚園は幼児の安全を守る取組をすすんで行っている。

設問 11： 幼稚園は保護者にとって相談がしやすく、親身になって対応している。

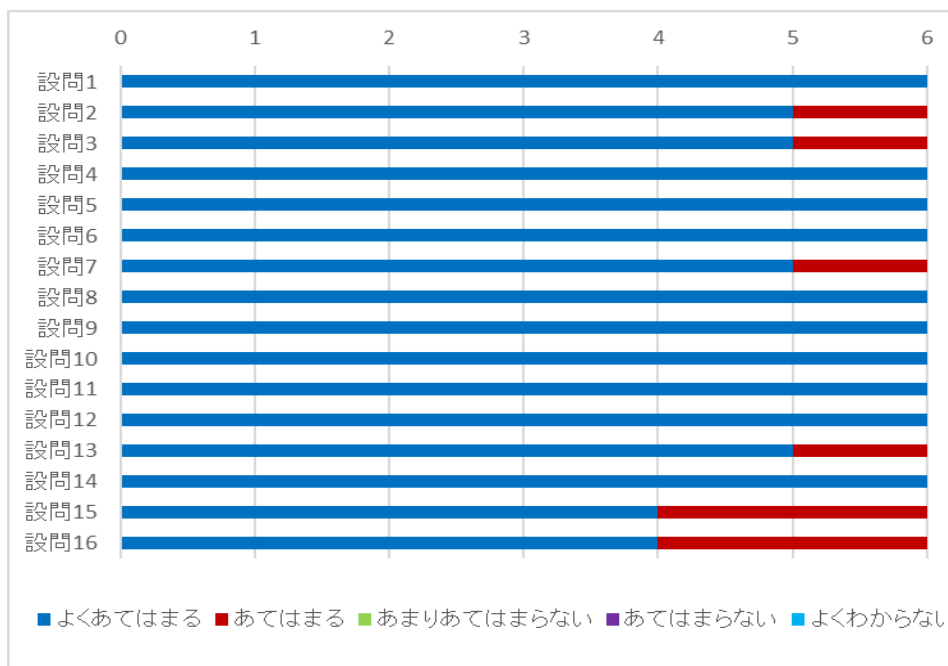
設問 12： 幼稚園は家庭への連絡や情報の提供（降園時の連絡やルクミーでの配信、幼稚園公開、保護者会・学級懇談会、個人面談等）に努め、すすんで子育て支援を行い、家庭とともに幼児を育てる体制づくりをしている。

設問 13： 園舎内外の清掃・整理などの環境整備が行き届いている。

設問 14： 併設の小学校や近隣の保育園との連携が積極的に行われている。

設問 15： 未就園児の会の実施やホームページでの教育活動の発信を通して、地域に開かれた運営が行われている。

設問 16： 保護者は公開日に幼児と一緒に活動したり、保育体験で保護者先生になって幼児の活動に参加したりなど、幼稚園の教育活動に積極的にかかわっている。



＜達成状況＞

- ・16設問中、10設問で「よくあてはまる」との回答が100%であった。また、全体では「よくあてはまる」の回答が92%、「あてはまる」の回答が8%で、合せて100%の評価をいただいた。

＜取組状況（○）及び今後の改善方策（◆）＞

- 昨年度教育活動の発信ツールとして動画を見せて説明することがとても有効だったが、ほぼ全員が預かり保育・弁当給食を利用しているため、昨年度まで行ってきた連携の工夫（降園前に活動の写真を親子で見る・動画を見せながらリアルタイムに活動を説明する機会）は実施できない状況にあった。今年度は園務支援システム『ルクミー』の配信方法を変更し、毎日活動の様子を短文ではあるが伝え、写真を掲載して知らせる形と、保護者会で全保護者が集まる機会を利用し、リアルタイムではないが、幼児の様子から教育活動の説明をする形をとった。一方で、保護者と直接顔を見て話す機会が減少していることは否めない事実であり、保護者の自由記述に行事に関する内容で教育活動の説明不足を感じられる意見があった。
- ◆保護者会で実際の様子が見られることを喜ぶ保護者の声が多かった。来年度も同じ状況になると考えられるため、リアルタイムにはルクミーで写真を、保護者会では動画を使って、教育活動を説明していく形とする。ルクミーの写真配信が一度に送るのは3枚までになっており、複数回送付することで様々な写真が送付できる形である、保護者からは一度にもっと写真が見られたらという意見もあったため、区に要望を出していく。
- ◆来年度より預かり保育が16:30→18:00までに変更となり、さらに保護者と顔を合わせて話す機会が減少すると考えられるため、保護者の実態に応じて声を掛けるタイミングや機会を探り、関係を築いていく必要がある。在園児の保護者は登園時顔を合わせる機会があるため、教員側から挨拶だけでなく何気ない話をしたり声を掛けたりし、継続的に話しやすい関係性を築いていく。
- ◆行事に関する説明については、毎日の教育活動の積み重ねから行事につなげていく幼稚園教育の説明にもつながるため、学級日よりルクミーなどで定期的に伝えていくだけでなく、学級懇談会時に昨年度の様子を写真を使って伝えていくなど、行事の心構えとして大まかな内容や雰囲気は保護者がつかめるような伝え方を工夫していく。
- 保護者が教育活動に参加する保育体験や月一回の読み聞かせする「さんさんきらきらでー」について、昨年度まで高い評価を受けているため、預かりが始まった今年度もどのような方法で実施できるか探りながら行うこととした。保育体験について、4歳児のため2学期から学級懇談会で実施する主旨を説明してから毎月実施している。「さんさんきらきらでー」は実施方法がなかなか見いだせず、未だどのような形で実施すると保護者・幼児両者のためになるのか、探っているところである。
- ◆保育体験は希望制であるが、幼児にとっては「自分の親だけ来ない」という認識になってしまうこともあった。保護者会等事前に決まっている行事には全員参加しているため、事前に予定を伝えることや、なかなか参加できない保護者も参加できる時間帯を伺い、無理のない範囲で参加できる内容を計画するなど、教育活動で工夫できることを考えて、3学期も引き続き実施していく。
- ◆「さんさんきらきらでー」で保護者に来園をお願いすることが難しいため、絵本貸出時に家庭でもできる触れ合い遊びを紹介する配信を行ったり、保護者会を利用して紹介した触れ合い遊びを実際にやってみる機会を設けたりすることで、3学期は親子で触れ合うきっかけをつくることで代替案として実施する。3学期の様子を踏まえて、来年度の実施方法を検討していく。
- 昨年度の反省より、保育園との交流が活発になるために、学期毎に希望を募ったり、小学校の様子が見られる内容を企画したりして進めてきた。幼児は回数を重ねる毎に、自分から関わろうとしたり声を掛けたりする姿に変化し、交流の効果を実感した。
- ◆来年度に向けて、1月末の保幼小連絡会にて保育園の先生方に交流について声を掛けていく。また、在園児が5歳児となるため、1学期から交流活動を実施するとともに、2学期以降には1年生との交流を通してかけはし期プログラムも含め、小学校への期待がもてる内容で交流を計画する。
- 未就園児の会の実施について、今年度は4月中旬に一年間の日程表（内容も含む）を作成し、HPに掲載・フランス門に掲示・児童館へ配布したところ、今までで一番参加率が高くなり、最高15組の親子が参加した。水遊びや校園庭などで遊ぶ企画が人気であった。しかし、園児募集までつながらないことが課題である。
- ◆幼稚園説明会同様に、未就園児の会の機会を利用して、在園児保護者やPTAにも依頼し、生の声を未就園児保護者に届けられるとよりよいのではないかと12月の学校評議委員会で話題に上がった。保護者の聞きたいことが直に聞けることは強みになると考える。来年度は、在園児・卒園児保護者の話が聞ける企画を実施できるように計画を立てていく。